

笑品をお送りいたします

世の中には似た言葉がいろいろあります

スマシ / スマイル

ホスト / ホトフ

アナゴ / アナゴ

カラス / カラス

ヤシ / ヤシ

ハルル / ハルル

エント / エント

トント / トント

サリ / サリ

ホシ / ホシ

本妻 (ホシ) が 盆栽 (ホシ)

の栽培で 年収 1000万円かせいた。

いつも大変大変お世話になって
おります

私が大大大好きな落語家
「柳家小三治」のトキ2x2リ一駄目
「小三治」を1月27日に申野の「なかの
ZEROホール」に観に行きました。
とても良かったです。

言葉よりも、
ひとのこころありき…

〈ドキュメンタリー映画〉

小三治

康 宇政 監督作品

出演：柳家小三治 / 入船亭扇橋 / 柳家三三 / 立川志の輔 / 桂 米朝

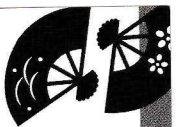
語り：梅沢昌代

プロデューサー：安西志麻 / 米山 靖

支援：文化庁
AGENCY FOR CULTURAL AFFAIRS

製作：オフィス・シマ/ヒボ コミュニケーションズ

2009年 / 35mm / ビデオ / 104分



”記録を残すのが嫌いな人”を 記憶するドキュメンタリー映画

カンニングジョン
康宇政

「元々、撮られることは好きじゃないんです。」そんな言葉を口にする柳家小三治師匠。噺家の仕事で第一で、テレビ取材等も避けてきたストイックな人が上野・鈴本での「歌ま・く・ら」の公演ならと撮影が始まりました。それを契機に師匠独特の高座は勿論のこと、寄席の楽屋裏から、地方興業への旅、プライベートな場面など、師匠によりそいながら噺家・小三治を見つめました。

普段、落語を見るお客さんにとつては、噺は、完成されたものとしてしか写りません。しかし、このころの底から素直に惹きつけられる、噺。それを紡ぎだすに至る裏側には何があるのか？ この作品では、高座の表舞台と裏舞台で落語を通じて、弟子を育てること、己を磨くこと。そして落語と格闘している噺家のひたむきな姿をドキュメンタリー映画として描き出しました。

当代随一の噺家の至芸が観られるのは勿論だが、カメラは高座以外の日常をスケッチしながら、その才人の至芸と日常の関係を探っていく。成る程、あれ程の至芸はそんなじよこらの噺家とはこんなにも違う日常の中に潜む高踏な人生観と素朴な創造精神によって生まれるのかと妙に納得させられる。でも美は至芸と日常の本当の関係は誰にも分からない。そのことも又、カメラは正直に映し出している。何はともあれ、高座の小三治のクローズアップが最高に美しい。至芸とその美。見逃す手はない！

映画監督 柳町光男

この映像——小三治師匠の芸魂に、すこぶる共感するところ、また、切々と胸に迫って教えられるところ、多々ありました。それにつけても、「芸が身を助く」る程の……幸せ？ 不幸せ？

俳優 小沢昭一

哲学する噺家。その素顔の一端を見た。

一部収録されている「鯉沢」が凄い。

コラムニスト 天野祐吉

笑いは心の肯定的な作用といわれるが、真の笑いは否定と疑問から生まれる。思索する噺家・柳家小三治の日々と、生き方とふとした啖ぎを追ったこの映像はその真理を痛切に映し出して落語の目からウロコを落とした。

ニューミュージックプロデューサー 京須借充

ベアソンスに支えられた独特のおかしみが、どこから来るのか。芸の中に人がいます。小三治さんという人が隅々にまで、息づいています。そのまっすぐなまなざしで、私たちが見つめられていると感ずる映画です。

作家 下重暁子

「カタチなんかは関係ない。噺なんだから”ところ”なんだよ」



「僕は小さいときから歌の好きな少年だった」



「遊びは、真面目にやらなきゃ遊びにならない」



「自分が素晴らしいと思う師匠達は、落語と格闘していますよね…」



「教えることは何もない。ただ見ているだけでいい」



自分が楽しまなくちゃ、人は楽しめないよ

ドキュメンタリー映画

小三治

出演：柳家小三治 入船亭扇橋 柳家三三 立川志の輔 桂 米朝

語り：梅沢昌代
監督：康宇政
プロデューサー：安西志麻 米山 靖

撮影：杉浦 誠
録音：米山 靖
構成協力：伊勢真一
スチール：青木信二
協力：平田慶文 鈴本演芸場 社団法人落語協会 バドック

支援：文化庁
製作：オフィス・シマ ヒボコミュニケーションズ
2009年/35mm/ビデオ/104分

※公開当時のチラシを使用しています

期日 6/5(日) 11(土) 18(土) 7/2(土) 9(土) 17(日) 23(土) 8/6(土) 14(日) 27(土) 【13:20】

会場 なかのZERO 視聴覚ホール (中野駅南口・線路沿いを新宿方向へ歩5分)

料金 当日1,400円/電話・メール予約(前日まで)1,300円

お問合せ オフィス10

電話番号 ☎ 03-6315-0422 / メール ✉ office10.jyu@gmail.com